

南九州市企業合同説明会

地元の企業を知らう！！

市内企業への就職を控えた3人



1月30日、南九州市企業合同説明会が薩南工業高等学校で開催されました。

この企業合同説明会は、地元の高校生が職業について学び、考える機会であるとともに、地元企業が自社の魅力を地元の高校生に伝える機会として、本市とハローワーク(加世田・指宿)が市内高等学校(頤娃・薩南工業・川辺)の協力のもと毎年開催しています。今年も3年ぶりに対面形式で行いました。

若者の市外流出に歯止めをかけるため、若者の職場定着促進に向けた取り組みの一つです。

今回の特集は、現在の求人状況や各学校の就職状況や取り組みについて、企業合同説明会に参加した生徒の声を紹介します。



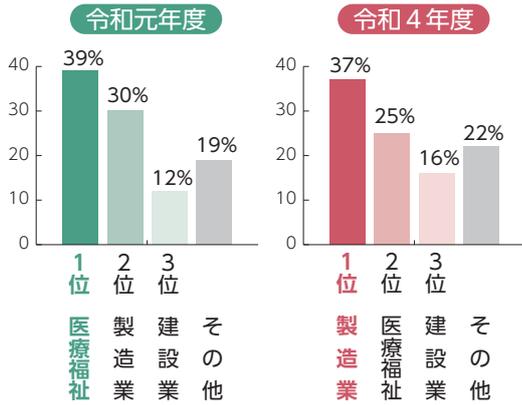
最近の求人状況について ハローワークに 話を伺いました！

まずは気になる企業を
「知る」ことから始めよう

南九州市の高校生の学卒求人産業別の状況について最近の動向をみてみます。

ハローワーク加世田では、コロナ前の令和元年度までは常にトップは「医療福祉」であり毎年100人以上の求人があり全体の39%を占めていました。しかし、令和2年度には求人控えが生じ70人台まで減少しました。逆に求人数を伸ばしたのが「製造業」です。令和3年度は半導体特需などの影響で

加世田所における学卒求人の産業別占有率割合
(各年度10月末)

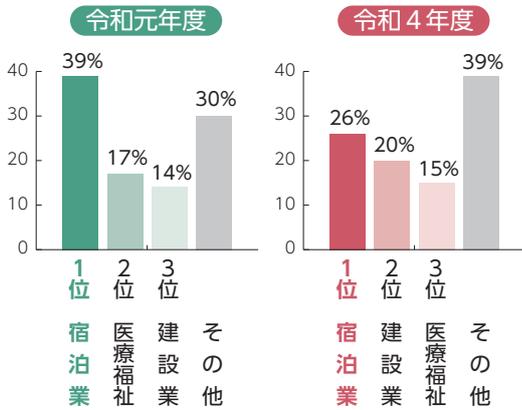


100人近くに達しましたが、10月末現在で昨年度と同水準となっております。

ハローワーク指宿では、令和元年度は、「宿泊業」が全体の39%を占めており、次いで「医療福祉」の17%、「建設業」の14%でした。令和4年度は全体の求人数はコロナ前の水準に戻りましたが、その割合は「宿泊業」26%、次いで「建設業」20%、「医療福祉」15%と変化しており、農業、漁業、食品製造業もコロナ以前と比べて増えてきています。

1月末に開催された「南九州市企業合同説明会」には市内の多くの魅力的な企業の参加があり、高校生の皆さまに対する期待の高さがうかがえました。毎年ハローワークで実施している企業アンケートの採用基準の欄をみると、各社それぞれ若干の違いはありますが、共通しているのは誠実で前向

指宿所における学卒求人の産業別占有率割合



きな考えを持った学生の方です。

自分の持っている力を地元企業で活かしてみませんか。まずは、説明会や企業見学に参加してみるなど、気になる企業を知ることから始めてみましょう。

各高校の求人・就職の 状況や取り組みについて 話を伺いました！

顕娃高等学校

求人数は今年度1月現在で昨年度より450件ほど増加しました。特に県外からの求人数は多く、ウイズコロナやアフターコロナを見据え、県外の企業も人材確保に乗り出し、落ち込んだ求人が大幅に回復し、高校生はさまざまな業種や職種に就ける可能性が広がったと思います。

ここ数年の生活様式の影響もあり、都会への憧れも薄れている中で昨年度以上に県内の求人も増え、生徒の地元志向が高くなる傾向にあるようです。

また、大学進学はもとより医療・看護系や情報系といった現代の産業に必要不可欠な職種を学ぶ上級学校への進学も、「修学支援新制度」や「企業支援制度」により増加しています。

職場見学で現場を見て、説明会で企業の生の声を聞くことで、生徒たちは「働く」イメージが強くなります。

勤労意欲と生徒に必要な能力を高め、多くの求人票や情報の中から慎重に情報提供を行い、生徒の希望や家族の期待に合った将来性を見越したミスマッチのない進路指導を行いたいと考えています。

薩南工業高等学校

コロナ禍により企業の新卒採用活動は大きく変化し、その影響を学校現場も受けましたが、最近ようやく落ち着きを取り戻したように感じます。求人数は一旦減少したものの、昨年度からは回復し、今年度は前年比の118%、10年前の2.8倍にまで増えました。コロナは企業のオンライン化を加速させ、今後は学校現場でも進んでいくことが予想されます。

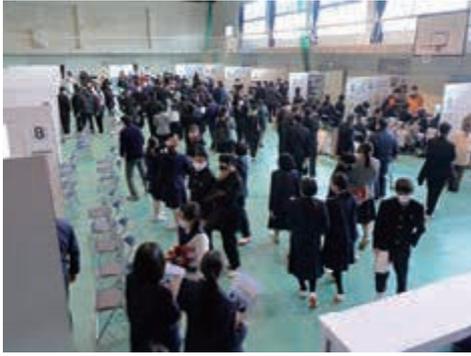
しかし、大学などで進んだオンライン選考やオンライン見学会は、自由に何社も受験できない高校の就活には馴染まない部分もあります。事前に担任が採用担当者と直接情報交換を行い、生徒は応募前に企業を見学して受験先を決める。ミスマッチを防ぐことを大前提にして、注意深く進めていくのが高校の進路指導です。

今後、社会のオンライン化が進む中においても、学校はこれまでどおり直接企業と連携し、情報交換を行い、さらに生徒の就業体験などを通して、企業の魅力を生徒に伝え続けて行かなければならないと考えています。

川辺高等学校

本校の就職状況ですが、令和3年度は就職希望者が2人で、それぞれ警察、自衛隊に就職しました。また、令和2年度は就職希望者が6人のうち民間企業へ5人、市役所へ1人就職しています。令和4年度は就職希望者1人となっています。普通科高校であるため、もとめ就職希望者が少ない状況です。コロナの影響による就職希望者数の変化は特に見られないと考えています。

本校にもさまざまな企業からの求人届が来ていますが、ここ数年、県内の求人数が増加しています。これまでに縁の無かった企業からも頂いていることから、高卒求人に対する応募が少なく、さまざまな校種の高校へ広く募集する企業が増えてきているのではないかと考えます。



企業合同説明会参加者に感想を聞きました！

薩南工業高等学校

佐多 優
生活科学科1年
南九州市にさまざまな企業があることを知る、とてもいい機会になりました。2年後の進路選択の時に生かしていきたいと思えます。



松下 暁心
建築科1年
自分は将来の夢は決まっているが、他の企業の話聞くことができて、さらに視野を広げるよい機会になりました。

穎娃高等学校

岡村 幸之介
機械電気科2年
進路はまだ決まっていらないが、こういう機会があることで、地元の企業を知ることができて、いい機会だと思えます。



前原 蓮
普通科2年
地元の魅力を聞いて、地元で働きたいと思えました。

川辺高等学校

森 紗香
普通科2年
いろんな職業を深く知ることができました。どの分野でもお客様のことを大事にされているんだなと思いました。自分の将来に関わることを知れたので、これからの進路選択に生かしていきたいです。



清水 杏華
普通科2年
企業の方々が生き生きしていると思えました。携わったり、裏で支えたりして、地元に貢献出来たらと思えます。



企業合同説明会以外の本市の取り組みも紹介します。

1 南九州市内企業パンフレットの作成

北九州市と共同で行っている「北九州市内大学ガイダンスフォローアップ事業」の一環として、地元企業の魅力をPRするパンフレットを作成し、30社以上の企業を紹介しています。

本市で操業している企業を、北九州市内大学に在籍している南薩出身の学生に紹介することにより、地元就職につなげ、若い世代の人口減少抑制や地元企業の人材不足解消を図ります。

2 市内高校生による事業所見学会の受け入れ

地元高校生が直接地元の企業に足を踏み入れることにより、机上やパンフレットでは感じる事の出来ない働く現場の雰囲気を感じ、より一層、就職への想いや憧れに繋げるために開催しています。

日時：令和4年12月6日（穎娃高校）
令和5年1月20日（薩南工業高校）

訪問企業：6社

対象：穎娃高等学校 機械電気科1年生（39名）
薩南工業高等学校 生活科学科2年生（25名）